

# コイノニア



秋を感じることでできる優しい風が吹いてきました。旧約聖書では、「風」は神さまが私たちに吹き込んでくださった「命の息」を表します。それが“魂”なのですが、私たちにはいつも神さまの「命の息」が吹き込まれていて、そっと優しく包み込んでもらっているのです。10月の聖句は、箴言19章11節です。

## 「成功する人は忍耐する人。」

箴言とは、旧約聖書に編集されている物語で、「知恵文学」というジャンルに属しています。「古代イスラエルにおける知恵は、まず第一に、人間がこの世界の中で賢く生きていくために必要な生活技術や生活能力を意味した。われわれは実生活の中で、様々な問題や困難に遭遇する。これらの課題を巧みに解決・処理し、時と場合に応じて適切に行動する能力、これが知恵なのである。」(『新共同訳 旧約聖書略解』監修：木田献一／日本基督教団出版局 2001年)という解説がありました。私たちがなかなかこのように器用に生きることはできませんよね。ちょっとしたことでケンカしたり、周囲の言動にイライラしてしまったり、私たちの毎日は問題や困難ばかりです。

そのような中で「成功する人は忍耐する人。」という聖句を皆さんと一緒に考えてみたいのです。もともとこの聖句は、文化祭を思い描きながら選んだものですが、文化祭では様々な部活動や団体、クラスで出し物が準備されていますよね。1人ではなく、みんなで準備するので、意見の食い違いや、自分の思い通りにいかないこともあり、すでに問題や困難に遭遇している人もいるでしょう。でも、「成功する人」とは神さまによって「成功させられる人」です。そして神さまによってもたらされる「成功」とは、自分1人で勝ち取るものではなく、みんなで一緒に歩む中で得られるものなのです。ですから自分のことだけを考えるのではなく、少しだけ他者のことを優先してみませんか？そういう意味での「忍耐する人」が、「成功する人」なのです。文化祭、みんなで成功させましょうね！

### 聖書・基督教の“はじめの一步”

### #07 「献金」

本校では、花の日礼拝・収穫感謝礼拝・クリスマス礼拝で献金のお願いをしています。「献金はいくら持ってきたらいいですか？」と丁寧に聞いてくれる生徒もいます。でも、献金はいくらでもかまわないのです。私が小さい頃に教会学校で教えられたのは、「献金というのは、そのときにお財布をあけて、じゃらじゃら小銭を片づけるように献金するのではなく、例えばその前の週に、ジュースを1本我慢して献金のためにとっておいてほしい。」ということでした。大切なお小遣いの一部をとっておいて、困っている人や助けてほしい人のために献げる行為は、“隣人愛”の見える形です。献金することを通して、他者を大切に生きる生き方を知ってほしいと思います。

### 10月の予定

月間聖句 「成功する人は忍耐する人。」(箴言19:11)

月間テーマ 「作り上げる喜び」

21日(水) JOCS特別礼拝 奨励：東岡牧さん(看護師)

“JOCS”とは、日本基督教海外医療協力会の略称です。  
「イエス・キリストの 教えにしたがい 困難のなかにある人々の健康といのちをまもり、人々と苦悩・喜びを分かち合うために」活動している団体です。本校では毎年、海外へ派遣されていたワーカーさんの講演会を開催しています。

## JONAN's History #07 西村清雄の愛用品



← 西村清雄がいつも身につけていた襟巻きと杖と帽子。本校にある100周年記念資料館で大切に保管されています。

資料館の中には歴史的に貴重なものがたくさん展示されています。



### ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆



### 青空×弁当×男子 = ☆青春☆ 背中で語る“いつもご飯アリガトウ♡”

